

平成26年度札幌市食育推進会議

議 事 録

日 時：平成26年7月24日（木）午後3時開会
場 所：WEST19（札幌市保健所）2階 研修室

1. 開 会

○事務局（高川健康企画担当部長） 皆さん、どうもお疲れさまです。

定刻よりやや早いのですけれども、ご出席予定の委員の方々は皆さんおそろいですので、早速、始めさせていただきたいと思います。

私は、保健所健康企画担当部長の高川でございます。どうぞよろしく願いいたします。

ただいまから、平成26年度札幌市食育推進会議を開催させていただきます。

会長による議事進行までの間は私が進行させていただきたいと思います。

本日の委員の出席状況でございますが、委員20名のうち19名のご出席をいただいております。規定に定める定足数の過半数に達しておりますので、本日の会議は成立しております。

お手元の会議次第に沿って進行させていただきますが、終了時刻は4時半くらいをめどとさせていただきます。ご協力をどうぞよろしく願いいたします。

それから、この会議につきましては、毎度申し上げておりますが、情報公開ということで、札幌市のホームページで市民に公開することを前提としておりますので、会議録の作成のために会議の内容については録音させていただきますので、ご了承いただきたいと思っております。

次に、お手元の会議資料の確認をさせていただきます。

本日の資料といたしまして、会議次第、座席表、委員名簿、資料1から11までです。資料は以上でございますが、不足などはございませんでしょうか。

それから、資料1のほか、皆さんにあらかじめお送りしている資料もありましたが、本日、一式を改めて配付させていただいております。その後、修正箇所などもございましたものですから、本日配付した資料をもってご審議をいただきたいと思っております。

2. 挨拶

○事務局（高川健康企画担当部長） それでは、開会に当たりまして、保健福祉局医務監の館石からご挨拶を申し上げます。

○館石保健福祉局医務監 皆様、お疲れさまでございます。

ご紹介をいただきました保健福祉局医務監の館石と申します。

本日は、皆様、何かとご多用のところ、食育推進会議にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

また、皆様には、日ごろから、札幌市の食育の推進に当たり、いろいろ形でご協力をいただいておりますことに対し、厚くお礼を申し上げたいと思っております。

この会議は、札幌市の条例に基づく附属機関として、食育の推進に関するさまざまな行政施策について幅広く総合的にご審議をいただく場として開催しているものでございます。

ことは、第2次札幌市食育推進計画がスタートして2年目になります。この計画では、食を大切に作る心を育むという基本理念をもとにしまして、三つの基本目標を掲げてござ

います。健康で活力ある人づくり、市民が暮らしやすい環境づくり、市民みんなで作る食文化という三つの基本目標に向けて、食への感謝の心を持ち、心も体も健やかで豊かな食生活を送ることを目指しているものであります。

特に、健康で活力ある人づくりについては、昨年度に策定いたしました札幌市健康づくり基本計画、これは健康さっぽろ21と言っておりますが、この第2次計画にも位置づけている重要な分野でございます、バランスのよい食事、あるいは、運動などの健康的な生活習慣についてもあわせてPRしていきたいと考えているところでございます。

食育はどの年代にとっても大切ですが、今後は、特に、生活習慣病に至る前の年齢層である高校生や若い世代への普及啓発にも力を入れていきたいと考えております。

そのために、多くの関係者の方々と協働して総合的に進めていく必要があるものでございますので、ご協力をまたよろしくお願ひしたいと思います。

本日は、まず、事務局から、これまでの事業報告をさせていただきますが、皆様には、札幌市の食育の推進のために、どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、簡単ですが、開会のご挨拶にかえさせていただきます。

きょうは、どうぞよろしくお願ひいたします。

◎委員紹介

○事務局（高川健康企画担当部長） 続きます、委員の皆さんのご紹介でございますが、今回は、今年の会議以降、新たに就任された委員の方のみをご紹介させていただきますと思います。

まず最初に、札幌市農業振興協議会会長の藤田範彦委員でございます。

藤田委員は、高島委員の後任として、平成25年11月28日に委嘱させていただいております。

続きます、一般社団法人札幌市中央卸売市場協会会長の高橋松一郎委員でございます。

高橋委員は、高田委員の後任として、6月18日に委嘱をさせていただきました。

もう一方は、本日ご欠席でございますが、一般社団法人札幌市食品衛生協会専務理事兼事務局長の田中弘一委員でございます。

田中委員は、畑中委員の後任として、6月18日に委嘱をさせていただきました。

以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それから、本日は、事務局として、札幌市の各関係課の職員も出席しておりますので、委員の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、まことに恐縮でございますが、ただいまご挨拶申し上げました医務監の館石につきましては、この後、退席をさせていただきますので、ご了承いただきたいと思います。

これより、議事に移りたいと思います。

議題につきましては、進行を荒川会長にお願ひいたします。どうぞよろしくお願ひします。

3. 議 事

○荒川会長 会議の次第に従いまして、議事に入らせていただきたいと思います。

先ほど、高川部長からもお話がありましたけれども、後ろの時間が16時30分を予定ということで、限られた時間の中で、できるだけ多くの委員からご意見を賜りたいと思いますので、議事の進行につきまして、ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、議題（1）の平成25年度食育事業報告につきまして、事務局からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 食育・栄養担当課長の加藤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、本日お配りしました資料1の第2次札幌市食育推進計画関連事業・取組一覧をご用意いたします。

この資料は、札幌市食育推進計画に基づき、平成25年度に食育関係課でどのような取組みを行ったか、その事業の取組みを記載したものでございます。

資料の1ページ目をおめくりください。

平成25年度における達成状況を記号であらわしております。

事業の取組みの目標が達成されたものにつきましては、二重丸をつけております。目標に向かって推移している事業は丸印、変化なし、または、目標から遠ざかっている事業につきましては三角、評価できない事業は横バーとなっております。

平成25年度は、目標が達成された取組み指標は134個ありました。目標に向かって推移している事業は17個、変化なし、または、目標から遠ざかっている事業は42個、評価できない事業は6個となっております。

また、昨年の食育推進会議でご指摘のありました実績値を上回っている目標値につきましては、全て見直しを行っており、その事業につきましては、アスタリスクをつけております。

それでは、平成25年度の事業の一部をご紹介します。

パワーポイントを使用する方は、前に出てご説明をお願ひいたします。

最初に、保健所健康企画課歯科保健担当課長の秋野課長からお願ひいたします。

○事務局（秋野歯科保健担当課長） 保健所歯科保健担当課長をしております秋野でございます。

私から、保健所の歯科保健担当課の取組みについて、簡単にご報告させていただきます。

お手元にも資料はございますが、前のスライドはカラーになっておりますので、前をごらんいただければと思います。

まず、保健所の実績報告の前に、歯と口の健康づくりと食育のかかわりについて、改めてご説明をさせていただきます。

こちらのイメージ図は、平成21年に厚生労働省が作成いたしました歯科保健と食育のあり方に関する検討会報告書から抜粋しましたイメージ図になります。

この報告書におきましては、全ての国民がよくかんでおいしく味わって食べるためには、歯と口の健康が不可欠であり、食育の推進を図る上で、歯科保健活動は基礎的な役割を担っているとされております。

報告書では、歯と口の健康がおいしい食事や楽しい会話に不可欠であることはもちろんでございますが、健康な歯でよくかむことができれば、消化を助けるだけではなく、食物本来の味や香りを引き出し、味覚や嗅覚が育まれ、このような味覚、嗅覚を含めた五感を通じて、よくかみ、味わうことにより、生涯にわたって食生活を豊かなものにすることが可能となると述べられています。

国民が健やかで豊かな生活を送るためには、十分な口腔機能の発達、維持が必要であり、特に、高齢者におきましては、窒息や誤嚥のリスクも高まることから、安全な食べ方を意識した食の選択力も重要であると指摘をされております。

このように、国におきましても、歯科保健と食育のかかわりの重要性が認識されておきまして、国が平成23年3月に策定いたしました第2次食育推進基本計画におきましても、よくかんで味わって食べるなど、食べ方に関心のある国民の割合をふやすという歯と口の健康に関する目標値なども新たに位置づけられたところでございます。

本市における札幌市食育推進計画におきましても、歯と口の健康づくりとの関連に着目をいたしまして、ライフステージに応じた食べ方を支援することを主な取り組みの一つに掲げ、乳幼児や高齢者を対象とした歯科保健事業を実施しているところです。

それでは、平成25年度の事業内容について簡単にご報告いたします。

まず、虫歯予防教室でございます。

この事業は、乳幼児の保護者を対象に、虫歯予防に関する知識のほか、歯と口の機能の発達や、よくかみ、よく味わう習慣を身につけることを目的に実施しております。平成25年度の実績といたしましては、1,481人の参加を得ております。

内容といたしましては、こちらのスライドにありますように、管理栄養士により、食習慣やバランスのよい食事やおやつのとおり方などについての講話を行いまして、その後、歯科衛生士による実習といたしまして、仕上げ磨きに関する方法や歯と口の発達や機能についても保護者に対して保健指導を行っております。

続いて、高齢者口腔ケア研修事業についてでございます。

この事業は、高齢者の食べる機能の維持・向上や誤嚥、窒息の防止に配慮した食べ方の支援を行うため、一般の高齢者を対象といたしまして、口腔ケアに関する講習会を、本日も委員としてご参加をいただいております札幌歯科医師会のご協力を得て実施させていただいているところでございます。

平成25年度の実績といたしましては、この写真のような講習会を10回実施しております。

講習会では、お口のお手入れの方法や、かむ力に応じた食材の選択方法のほか、こちらの写真はちょっと小さいからわかりづらいかもしれませんが、舌を出して舌の運動をしているときの写真です。こういったお口の体操などの実技も組み入れまして、高齢者の食べる機能の維持を目的とした取り組みを行っているところです。

今後も、歯科保健の立場から、食育の推進に取り組んでまいりたいと考えております。私からは以上でございます。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 続きまして、保健所健康企画課食育栄養・担当課の松田係長からお願いいたします。

○事務局（松田食育推進担当係長） 座って説明をさせていただきます。

保健所食育・栄養担当課の松田でございます。

お手元の資料では資料3となっておりますが、平成25年度の食育事業について、パワーポイントでご報告させていただきます。

第2次札幌市食育推進計画の普及啓発のため、札幌市食育カレンダー2014を6,000部作成し、計画の柱であるさっぽろ食スタイルやバランスのよい食事の摂取、野菜摂取、朝食の摂取などを啓発いたしました。

昨年12月に委員の皆様のお手元にもお届けさせていただきましたが、食育関係団体と学校、保育所、児童会館、病院、事業所、給食施設などのほか、市民の皆様にも広く配付いたしました。カレンダーを受け取った市民からは、食育についてわかりやすく、レシピも掲載されていて楽しい、あいているところに体重を書いています等の意見をいただいています。

こちらは、札幌大学の大学祭において、食育の情報発信コーナーとして、保健所と食育学生ボランティアが作成した野菜のレシピや乳製品のレシピなどをお配りしております。また、食育輪投げコーナーなどで、さっぽろ食スタイルの啓発を行いました。

こちらのステージでは、札幌市食育特別大使Qoちゃん和食育学生ボランティア、保健所職員による朝ご飯体操や食育ウルトラクイズなど、楽しみながら大学生も参加していました。特に、食育学生ボランティアが情報発信コーナーにいて、同年代ということで親近感をもたらし、効果的でした。

また、昨年の食育推進会議でご提案をいただきましたボランティアの交流ということで、食育ボランティアとして活動していただいている札幌市食生活改善推進協議会の皆様と学生ボランティアの皆さんが10月に行われましたいきいき福祉・健康フェア2013と平成26年1月の「食のまち・さっぽろフェスト in チ・カ・ホ」の食育情報コーナーにそれぞれ参加をいただきました。食育輪投げコーナーや減塩・塩分体験コーナーなど、それぞれに活動していただきました。

こちらは、いきいき福祉・健康フェア2013におきまして、ボランティアの交流の場として時間を設けさせていただきました。お互いの活動の状況を話し合っ、よい刺激になっていたようです。特に、学生の皆さんは、食生活改善推進員の方の幅広い食育活動が

参考になった、自分もできたら活動していきたいなどの意見が寄せられました。

食育の体験活動といたしまして、親子料理教室や男性料理教室、マタニティ料理教室などの料理体験の機会や、乳幼児健診などで朝食の摂取や野菜摂取、栄養バランスのとれた食事の啓発など、情報発信を行ってまいりました。

また、各区では、食育ネットワーク事業を行い、食に関連した団体等と連携・協働し、地域で食育を推進いたしました。

各区における食育事業につきましては、後ほどご説明させていただきます。

平成25年度食育事業のご報告は、以上とさせていただきます。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 続きまして、保健所食の安全推進課の細海課長、お願いいたします。

○事務局（細海食の安全推進課長） 保健所食の安全推進課長の細海と申します。よろしくお願いいたします。

私からは、安全・安心な食のまち・さっぽろ推進事業につきましてご説明させていただきます。

資料は、資料4-1と資料4-2になります。

最初に、資料4-1をごらんいただきたいと思います。

安全・安心な食のまち・さっぽろ推進事業ということで、通称、食まち事業と呼んでおります。安全・安心な食のまちを目指してということで各種事業をやっておりますけれども、最初の歴史のところでございます。

平成23年2月につくりました推進ビジョンに基づきまして5年計画で行っておりまして、今年度がその5年目でございます。

現在は、昨年に取り上げました札幌市安全・安心食のまち推進会議におきまして、新しい計画を作成中でありまして、来年3月に作成する予定でございます。

それでは、昨年度の食まち事業につきまして、主なものをご説明させていただきます。

その中段になりますさっぽろ食の安全・安心推進協定事業ということで、平成21年度から行っております。これは、食品関係の事業者の方々と市民の方々に会社としていろいろな努力をしている部分を知っていただきたいということで、いろいろなマイルールをつくっていただいて、その部分の協定を結ぶということで札幌市がそのPRをお手伝いするというので、札幌市と事業者が協定を結んでいるものでございます。

協定を結んだ事業者との間におきましては、こういった冊子をつくりまして、この中で写真を掲載するなど、札幌市としてPRに努めているところでございます。

その下のさっぽろ食の安全・安心市民交流事業でございます。

農家の方、あるいは、食品工場の方といった食に関連する方々の苦労や努力を市民の方々に知っていただきたいということで、農家を見学して、農家の方々から作物をつくるときの苦労や、農薬を減らす上での努力というもののお話を実際に聞くとか、食品工場に行きまして、衛生管理の気をつけている部分を聞いて、市民の方々に関心を持っていただくと

いう事業を行っております。

裏面をごらんください。

上の部分の食品Gメン体験事業ということで、小さい子どものうちから食品に関心を持っていただきたいということで、保健所の食品Gメンの体験を子どもたちにさせていただくということで、その写真にありますように、夏休みには中央市場の早朝の競りを見学して、食品の物流の部分を見たり、その中で食品衛生監視員が行っている温度測定を体験していただきます。

右側は、スーパーということで、冬休み期間中になりますけれども、スーパーのバックヤードなどを見ていただきまして、衛生管理に気をつけている部分などを学んでいただくということを行っております。

その下の食の安全・安心モニター事業につきましては、毎年30名の方を市民モニターとして選びまして、日ごろ使っているスーパーや飲食店の衛生状態を実際に見て、その目で思うところを保健所に伝えていただいて、いい部分、悪い部分を教えていただき、悪い部分は保健所が指導するというところを行っております。

最後に、真ん中にある食の安全・安心イベントということで、平成22年度、23年度、25年度とやっておりますが、25年度に行いましたイベントの結果が資料4-2になります。

昨年度は、ことしの1月になりますが、18日と19日の2日間、チ・カ・ホを使いまして、来場者が2日間で延べ1万7,000人ということで、地下歩行空間を借り切りまして、ステージイベントでトークショーを行うとか、クイズ大会、あるいは、物販のコーナーを設ける、あるいは、スタンプラリーを行うという形で、いろいろなイベントで食に関心を持っていただくということで取り組んだものでございます。

その裏面の下のところにアンケートがございます。

「興味・関心が深まった」というのが8割ぐらいの方、全体的に満足できましたかという問いには、「とても満足」と「ほぼ満足した」を合わせまして9割以上ということで、一定の成果を上げたものと考えております。

説明は以上でございます。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 続きまして、教育委員会生涯学習部栄養指導担当課の田村課長、お願いいたします。

○事務局（田村栄養指導担当課長） 教育委員会保健給食課栄養指導担当課長の田村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の資料5にございます平成25年度学校における食育の取り組みのご報告をいたします。

私どもは、学校給食を教材の一つとして活用いたしまして、食育の推進を図っているところでございます。

一つ目は、学校における食育の推進でございます。

栄養教諭を中心にして効果的な食育の充実を図るために、一つは、栄養教諭・学校栄養職員食育連絡会議で情報交換を行っております。また、市内の行政区単位の小・中学校で構成するブロック会議を組織しております。この中で、献立作成、食育の取り組み、地場産物の活用、実践交流などを行っているところでございます。

各学校では、食に関する指導の全体計画に基づきまして、給食時間での指導はもとより、担任とともに栄養教諭が教科等と関連させた授業を行うなど、子どもたちに望ましい食習慣を身につけさせるような取り組みを進めております。

二つ目は、地産地消の推進でございます。

関係機関との連携協力を図りながら、北海道産の食材を使用した学校給食の提供に努めております。北海道産食材の使用割合の目標を重量ベースで75%以上としており、平成25年度は76%と目標を上回っております。

また、各学校では、給食時間や教科等での指導、給食だよりへの掲載など、また、給食試食会での紹介など、食育の教材として北海道産食材を活用して、食育の充実を図っているところでございます。

三つ目は、さっぽろ学校給食フードリサイクルの推進でございます。

これも継続でございます。さっぽろ学校給食フードリサイクルと申しますのは、学校給食の調理で出ました食べられない調理くずや残菜などの生ごみを堆肥化し、その堆肥を農家が使って栽培した作物を学校給食の食材に用いて、子どもたちが実際に食べて実感するという食物の循環で、この取り組みを通しまして食育環境教育の充実を図ることを目的としております。子どもたちが物を大切に扱う、食べ物を大切に思うというところを目指しております。

この事業の継続でございますが、一つは、リサイクル堆肥を使いましてレタス、タマネギ、トウモロコシ、カボチャを学校給食の食材として使用し、食育に活用しております。

もう一つは、学習活動に生かすということで、希望する学校にリサイクル堆肥を配付しております。その学校数が平成25年度は152校となっております。

これらの学校では、教科と関連させてリサイクル堆肥を使った栽培活動とか栽培した作物の調理など、体験的活動に取り組んでおります。堆肥活用校からは、子どもたちが食べ物への関心が高まったとか、栽培活動への意欲が高まったなど、子どもたちが食べることに積極的になった、関心が高まったなどの効果があったとの報告がございました。

また、リーフレットを活用しまして、啓発活動も行ったところでございます。

以上でございます。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 続きまして、各区の食育の取り組みです。

札幌市食育推進計画策定時から10区の健康・子ども課において、食育推進ネットワークを動かし、地域での食育を推進することとしてきました。数年間かけて食育推進ネットワークを構築してきた区もありますが、今日は、東区、白石区、豊平区の先駆的な食育事業についてご報告をさせていただきます。

最初に、東区からの報告です。

東区健康・子ども課の小松主査、お願いいたします。

○事務局（小松健康・子ども課主査） 東区健康・子ども課の小松でございます。

東区の取り組みの中の食育推進ネットワークについてご説明をさせていただきます。

資料は、資料6-1のプリントとネットワークで作成しました2種類のレシピでございます。

平成20年策定の札幌市食育推進計画に基づき、平成22年度に東区食育推進ネットワークを立ち上げ、区民、関係団体、関係機関、地場企業、行政が連携して、情報の共有や事業の実施等で地域に根差した食育を推進しております。

食育推進ネットワーク構成員につきましては、お手元の資料のとおりでございます。

平成25年度からは、第2次食育推進計画に基づき、食育の周知及び実践を重点的な取り組みとし、また、東区は子育て世代が多いことから、乳幼児、小学生及びその保護者を重点に事業を行っております。

ネットワークで行っております主な事業は、次のとおりでございます。

この事業につきまして、一つずつご説明をさせていただきます。

まず、情報交換会（東区内施設見学）でございます。

各関係団体が行っている食育の取り組みについて情報交換を行い、地域の人材及び施設設備等の活用について情報共有し、今後の取り組みを検討し、食育の推進を図るということで実施しております。

平成25年度は、さとらんど内にあるサツラク農業協同組合のミルクの郷という工場見学をいたしました。これを生かしまして、牛乳ができるまで、食品の生産から調理までということで、今年度は料理教室と工場見学とあわせて事業を行う予定でございます。

区民公募、投票によるレシピの作成です。お手元にお配りしましたレシピ集になりますが、実践につなげるためにということで、地場産物であるタマネギ、牛乳、乳製品について区民からレシピを募集いたしました。このレシピ集に掲載するものにつきましては、区民の投票により、人気投票で作品を絞ります。こちらの写真がコンテストの写真ですが、天使大学のご協力により、コンテストを実施し、決定し、レシピを作成いたしました。

また、その作成したレシピを活用して、親子DEクッキングという名称にしておりますけれども、料理教室を開催し、実践につげていく取り組みを行っております。参加された保護者からは、家庭で食べない野菜を食べることができた。今後、家庭でも調理に携わらせていきたい。子どもがこのようなレシピをつくったことにびっくりして、家庭での取り組みが大切だという感想が多く寄せられました。

それから、食育川柳グランプリ、食育川柳かるた読み札募集ですが、平成23年、24年にレシピを募集いたしました。食育への関心を広く集めるということで、手軽な取り組みということで川柳を募集しました。昨年度は、約1,500の作品の応募があり、

投票に当たっても区民から500の投票があり、最終的には選考委員で決定したのですが、児童生徒のみならず、一般区民の食育への関心も集められたのではないかと考えております。

一番左側の写真になりますが、ネットワーク企業であるサツラク農業協同組合が牛乳パックに受賞作品をこういう形で掲載し、販売し、PRをしてくださいました。予想より早く完売する状況で、サツラク農業協同組合からも、地域貢献ができて大変うれしいというお声をいただきました。平成25年度の関心を集められたことをもとに、今年度は、食育川柳かるた読み札募集ということで募集し、かるたを作成し、活用していきたいと考えております。ふだんの絵の作成につきましては、地域連携協定を結んでいる大谷大学美術科の学生が作成してくれることになっております。

東区食育フェアです。地場産物であるタマネギ、牛乳・乳製品の摂取の啓発を行うことにより、食を大切にする心を育み、さらには、区民に広く周知するという事でネットワークの立ち上げから毎年実施しております。会場につきましては、ネットワーク企業のアリオ札幌の会場を提供していただいております。

こちらのスライドはないのですが、食育のステージであったり、右下のものはバターづくり体験を行っているのですが、バターづくり体験、アイスクリームづくり体験、野菜の展示等も行っています。雪印メグミルク、サツラク農業協同組合、JAさっぽろ、食育ステージに関しましては、連携協定を結んでおります天使大学の学生が担当してくださっています。

左側の上の写真は、ちょっと見づらいなのですが、東区にある日本ハムファイターズの栗山監督もご協力いただきまして、2年前にトークショー等を実施しております。

今後におきましても、区民、関係団体、関係機関、地場企業、行政が連携して地域に根差した食育を推進してまいりたいと考えております。

東区からの説明は以上です。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 続きまして、白石区健康・子ども課の先野管理栄養士からご報告をいたします。

○事務局（先野健康・子ども課健やか推進係） 白石保健センターの先野と申します。よろしく願いいたします。

白石区食育推進ネットワーク事業について報告させていただきます。

白石区の資料は3点になります。

白石区ネットワークは、平成24年度に立ち上げ、12の団体のご協力をいただいております。立ち上げに当たり、ネットワークの取り組みの方向性を決めるため、区の現状と課題を、平成24年、健康づくりに関する市民意識調査から見えました。

食育への関心については、持っている人の割合は平均的ではあるが、10区の中では低目、食事に対する改善意向がある人が多いものの、無関心層も多い、食育を実践している人は少なく、食育を実践しないのは、食費という現実的な問題もあるが、情報がなく、で

きない人もいることがわかりました。

これらから、取り組みの方向性は、白石区はまだ周知の段階ということ念頭に、こちらの四つとしました。

平成25年度からネットワーク事業の開始となり、名称は、白石区のマスコットを取り入れ、しろっぴーの食育ひろばとしました。

事業についての詳細は、資料の2枚目にあります。

その中から何点かご紹介いたします。

野菜料理レシピコンテストは、中学生からの応募もあり、入賞レシピは、保育園、幼稚園、小・中学校の協力で、子どもたちを通して多くの方に配付しました。今年度は、食堂などで料理を提供いたします。

野菜摂取強化月間DVDは、区内の学校栄養士と制作し、小・中学校で放映しました。

料理教室は3回、研修会は2回行い、研修会は保育園、幼稚園の指導者の研修も行いました。

調査は、食育アンケート、食育実施調査を行いました。

事業調査は、各団体で行っている事業の情報を共有するために行いました。アンケート結果からは、このような子どもたちの食育傾向を知ることができました。

ネットワークの強化とPRとしては、各団体の協働により、お手元にあります「しろいし食育通信」の作成、配付、パネル展などを行いました。

今後は、各団体で展開している食育を区として目指す目標を持って、切れ目なく、無関心層も引き込める食育を推進できるようにと思っています。

これで白石区の報告を終わります。ありがとうございました。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 豊平区健康・子ども課の岡林管理栄養士、お願いいたします。

○事務局（岡林健康・子ども課健やか推進係） 豊平区健康・子ども課の岡林と申します。豊平区の報告させていただきます。

お配りしました資料は、資料8-1、資料8-2になります。

また、お手元のマグネットにつきましては、啓発品の一つとしてお配りしているものです。

豊平区では、区の特徴を生かした食育事業のとよひら“風土(フード)”コレクションを実施しています。この事業は、区内のレストラン、お菓子屋さん、パン屋さん、学校や食に関する機関と豊平区が連携して、区のシンボルのリンゴや区ゆかりの食材を使ったオリジナル商品を通して、区民の皆さんに食にもっと興味を持っていただくことで、より健康的な生活が送れることを目指しています。

第2次食育推進計画で指標としている食育に関心のある人をふやすため、行政だけでは限界がありますので、地域の事業者と協力して地域資源を活用して、行政だけではなく、事業者からも食の発信をしてもらうことで、地域に根づいた取り組みを目指しています。

そこで、事業名について、覚えてもらいやすい名称を考えて、日本語で書くその土地のもの、根づいたといった意味合いの「風土」という漢字と英字で書く食べ物をあらかず「フード」をかけて名づけました。

なお、豊平区では、明治時代からリンゴの栽培が始まり、シンガポールなどへ輸出していたという歴史があります。

また、札幌ドームの隣には、北海道農業研究センターがあり、農産物の最先端の研究がされています。そこで研究開発された農産物を区ゆかりの食材とし、これを活用しています。

この事業の実施に当たっては、行政主導ではなく、とよひら風土ネットを推進体制としていること——とよひら風土ネットにつきましては、後ほどご紹介いたします。地域の企業と連携して実施していること、協力事業者自身がそれぞれのフィールドを生かして食にかかわる情報を発信していることが特徴となっています。

身近なお店で目にする機会をふやすことで、食に興味を持つ人の裾野を広げて、区民全体の食への関心度を高められると考えています。

とよひら風土ネットとは、先ほども出てきましたけれども、とよひら“風土(フード)”コレクションを進めるに当たっての推進体制です。豊平区健康・子ども課を事務局とし、教育関係、生産関係、子育て支援関係、ボランティア、地域代表の方々から構成されています。各委員の属しているフィールドを生かし、当事業の方向性などを図りながら進めています。

昨年度には、事業の目印となるようなロゴマークを作成いたしました。豊平区内にある平岸高校デザインアートコースの生徒の皆さんに依頼したところ、42にも及ぶ作品が集まりまして、とよひら風土ネット委員が選考委員となって、これが最終的に選ばれたマークとなっています。

昨年度からこのロゴマークを活用して、わかりやすく、親しみのある事業展開ができていると感じています。

お手元にお配りしましたマグネットはその啓発品の一部でして、このほかにも、協力店の店頭ステッカーなども掲示しております。

区ゆかりの食材を活用した商品の一例をご紹介します。

レストランでは、リンゴやジャガイモを使ったメニューや、製菓製パン店では、超強力小麦粉ゆめちからを使ったパンや米粉を使ったクッキーなど、この事業の取り組みで生まれた商品が定番商品として年中取り組んでいただいているものがあります。

各種イベントでは、普及啓発を行っています。例えば、きたえーるで行いました約2,000人が集う子育てイベントや地域で開催される健康フェア等のイベントがあります。幾つかのイベントには、協力事業者にも参加していただき、商品を通して周知・啓発を行いました。内部的なことではございますが、当該事業につきましては、事業を企画する課や地域振興を担当する課などと連携して行っています。

今後は、協力店同士の横のつながりをつくるなど、さらにネットワークを広げて協力店からの食の発信力を強めていく予定でございます。

以上でございます。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 平成25年度の食育事業報告につきましては、以上でございます。

○荒川会長 ありがとうございます。

全体的な事業の評価をお話いただいた後で、代表的な四つの事業につきましてご紹介をいただきました。また、食育ネットワークが構築されまして、各区で取り組まれている食育事業につきましてもご紹介いただきました。

この後、委員の皆様から何かご質問、ご意見があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○村田委員 すごく小さなことです。今、豊平区のご説明をお聞きしましたけれども、協力商品の一例としておこめのポルボとあるのですけれども、これはどういったものでしょうか。教えてください。

○事務局（岡林健康・子ども課健やか推進係） ポルボというのは、クッキーの仲間、小麦粉のかわりに米粉を使用しております。

○遠藤委員 遠藤と言います。よろしくをお願いします。

僕も、ピンポイントで意見があります。

昨年行われたこの会で、広告に関して、ちょっと質が低いのではないかという意見を出させていただきました。写真に関しても、解像度が低かったり、写っているものが何かわからなくて、メニューがおいしそうに見えないとか、そういう点を指摘させていただきました。

委員になりまして、この1年の間に送られてきた資料が何点かありますが、その中の食育カレンダーを拝見しました。私は、もとは広告の関係なので、忌憚なく言わせていただきますけれども、昨年言いました意見が全然反映されていなかったなと感じています。写真も解像度がとても低くて何が写っているかわからないものもありましたし、写真の質もおいしいそうには全く見えないものが多かったです。そのほかの広告に関しても、最近、インターネットで個人の方たちが上げる料理の写真はすごく上手に撮れているのに、どうしてこのように発信するもののデザインの力が低いのかと、ちょっと残念に思っております。

そこで、余りにも残念と感じてしまったので、食育について話し合う会を設けたときに、農業者、健康食品販売店の方、デザイン関係の方、養鶏家の方たちを集めて、食育カレンダーについて話し合う場を設けてみました。そのときに、皆さんからは、残念でならないという意見が出ていました。

特に、きょうのような報告会となりますと、どうしてもいい意見ばかり出さざるを得ないといえますか、数個のいい意見を出すことでその事業がよく見えてしまうことがあります。

す。どれとは言いませんけれども、アンケートをとった結果、何%がいいと言っていたというのも、全体の人数がわからないので、どれぐらいの反応があったのかがわかりにくいところがあります。

食育カレンダーのことばかりで恐縮ですが、実際に、広報さっぽろで各区に100部ずつ配りますという資料も見ました。個人的に、12月28日の仕事おさめの日に、各区でどれぐらい余っているのかなということを調べました。6,000部を配っているとは知りませんが、各区に100部ということだったので、どれぐらい余っていますかと電話で聞いたところ、ある区では50部以上余っていますと言っているところもありました。ということは、私たちは、つくっていることに対して満足していて、実際的に興味・関心を得たいと思っている人たちには余り伝わっていないのではないかと思います。

食育カレンダーについて、感じるがありましたので、それを報告しました。

もう一つは、白石区の資料の中に、無関心層へのアプローチと書いてあるのですが、白石区に限らず、無関心層の人たちに対して食育をどういうふうに伝えるかというアイデアがあればぜひ聞きたいです。白石区に限らず、何かありましたらお伺いしたいと思います。

以上の2点です。

○荒川会長 まず、1点目は、食育カレンダーにつきまして、デザイン等については、経費的な問題などもあってどうなのかと思いますが、その辺の背景があればご説明をいただきたいということと、必ずしも有効に使われていないのではないかと思います。食育カレンダーについては、この2点だと思いますので、まず、その問題について、事務局からご説明があればお願いしたいと思います。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 食育カレンダーにつきましてご意見をいただきまして、ありがとうございます。

食育カレンダーに載せている写真等は、全て、管理栄養士の自宅で撮影して、それを掲載したものです。経費的に食育推進費が豊かではないことから、ほとんどが自前で作成しなければいけなかったというような背景があります。今、遠藤委員からご指摘があったようなプロの写真家を雇用してスタジオで撮影したというところまで至らなかったというのが一番の原因であったと思います。

今後、その製作につきましても検討を重ねていかなければならないと思いますが、いかんせん、食育推進費全体のお金が保健所と部を合わせて九百何十万円ということもありまして、各区に割ると何十万円か、保健所においても食育推進費のうち、純粋に食育カレンダーで使っているお金も十数万円ということもありまして、食育カレンダー自体のきばえが遠藤委員の満足に値する内容ではなかったというご意見は賜ります。しかし、それに携わった者たちは、私も少し撮影をしましたけれども、協力し合って作成しております。食育カレンダーについては、写真だけの問題ではなくて、その日付の中に何を記載したらいいのかというあたりも検討を重ねて作成しました。今後、その作成に至っては、慎

重に製作を進めていきたいと考えております。

それから、有効活用につきましては、新年が明けましても配付は続けられていたと聞いております。12月28日で50部残っていたということも遠藤委員が調査してくださったようですが、1月が明けてからもその配付は各区で行っておりまして、残部はほとんどなかったというふうに聞いております。

それから、2点目の無関心層に関しては、大変難しいことだとは思いますが、昨年、食の安全に関して、チ・カ・ホでイベントを行いました。あそこを通行する方々のほとんどは食育に関心のある方ではなかったと思います。しかしながら、足をとめてパネルをごらんになったり、保健所健康企画課では減塩活動のようなことを行ったのですけれども、そういった無関心層も集まるような中でイベント等を行う、チ・カ・ホの活動であったり、大学祭の活動だったりという中で、何をやっているのだろうということでも人を呼び寄せて、関心度を少しでも高めていくというところからのスタートでよろしいのではないかと考えております。

○荒川会長 遠藤委員、よろしいでしょうか。

恐らく、二つ目の質問につきましては、決め手はないと思うのです。その決め手があればどんなに楽かと我々も思っておりまして、あの手、この手でそういう環境をじわじわとつくっていくしかないのではないかと思いますので、その辺は、その会議としましても、いろいろなアイデアを出して、いろいろな方策でやっていくしかないと思いますので、ぜひ、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

そのほかにいかがでしょうか。

○清水委員 取り組み一覧の1ページですけれども、給食試食会の開催の評価が三角というのは、実施された学校の数が少ないということでの評価だったのででしょうか。

もう一つは、その下の5年生のアンケートについて、朝食をとる児童の目標値は3%ですが、結果はどうだったのかということはおわかりいただけますでしょうか。

○事務局（田村栄養指導担当課長） 教育委員会の田村と申します。

試食会ですが、目標値は全校としております。実際は、給食試食会を保護者の方などに給食を理解してもらおうということで目標値を全校としておりますが、実際のところ、学校行事とか、学校のご事情でそれが実施できない場合もございます、実際の実績が268校となったということもございます。

○事務局（齋藤教育課程担当課長） 朝食のことについては、委員会の内部でも所管が違うのではっきりはわからないところがあるのですが、この調査については、3年ごとに行っているということがございますので、多分、平成24年度に行った結果、この後の3年後を目指してということではないかなと推察されます。

○清水委員 給食試食会は、PTAが主になって実施する学校がほとんどです。ただ、やった経験から言うと、給食が栄養面や安全面でどんなに気をつけられているかということも保護者としても勉強することになりますし、家庭での食育にもとても勉強になるものが

多いので、PTAとしては、これからできるだけ多くの学校で実施されるように広報していきたいと思います。ありがとうございます。

○荒川会長 そのほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○荒川会長 それでは、議題(2)に入らせていただきたいと思います。

議題(2)の平成26年度食育事業計画につきまして、事務局からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○事務局(加藤食育・栄養担当課長) お手元の資料1の第2次札幌市食育推進計画関連事業・取組一覧をごらんいただきたいと思います。

この資料は、平成25年度の食育事業報告とあわせて、平成26年度の食育事業についても記載しております。平成26年度におきましても、関係各課では目標に向かって精力的に取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

そこで、本日は、事業の一部をご紹介させていただきたいと思います。

最初に、保健福祉局保健所食の安全推進課からお願ひいたします。

○事務局(細海食の安全推進課長) 保健所食の安全推進課の細海でございます。

引き続きまして、私から説明させていただきます。

私からは、今年度新しく行います食まち事業の一つとして、食の安全・安心おもてなし推進事業というものを計画しておりますので、それにつきまして簡単に説明をさせていただきます。

ここに幾つか書いておりますけれども、アレルギー表示、栄養、禁煙、バリアフリーということで、飲食店の関係でいろいろと知りたい情報の幾つかを取りまとめて観光客の方にわかりやすく情報提供したいというのがこの事業の趣旨でございます。

観光客の方が、ホテルなどで宿泊して、札幌市内のどこかの飲食店を利用しようという場合に、例えば、アレルギーが気になるとか、栄養成分がわかるお店に行きたいとか、たばこが嫌いなので禁煙、分煙がちゃんとした施設に行きたいといったときに、どこの施設がそういうことにちゃんと取り組んでいるのだろうかという情報提供ツールがありません。通常ですと、それぞれの項目ごとに担当課等がございまして、それぞれにはいろいろな情報提供ツールがあるのですけれども、これらを幾つか複合で知りたいというときには、そういうものは今のところございません。

そこで、例えば、アレルギーや栄養成分表示のあるお店を使いたい、なおかつ、禁煙にも取り組んでいる施設がいいとか、車椅子の方がいるのでバリアフリーに取り組んでいる施設に行きたいとか、幾つかの項目をまとめて、そういった施設の認定等を行い、また、観光客の方が必要な情報を幾つか組み合わせて一目でわかるようなガイドマップを作成して、ホテルに置いて情報提供をしたいと考えております。

これが啓発品のイメージです。そこに書いているのは例ですので、まだまだいろいろなニーズがあるかと思うのですが、そういったニーズを把握した上で、いろいろな項

目が一覧でわかる形にして、なおかつ、そういったことに取り組んでいる施設には、こういった啓発品のようなものを考えて、それを置くことで、そういったものに積極的に取り組んでいる施設ですということアピールできます。これが軌道に乗れば、観光客以外の市民も利用できるようになりますので、こういう形でいろいろな項目を総合的に啓発できるようにということを考えております。

この事業は、昨年4月から動いております食の条例の中でも、食の安全・安心に関しては観光や経済の基礎となる部分もございまして、そういった趣旨にも沿った事業ということで進めていきたいと思っております。

私からは、以上でございます。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 続きまして、保健所健康企画課からの説明の前に、札幌市の食育の課題につきまして、私からご説明させていただきたいと思っております。

札幌市民の食生活の現状と課題についてご説明をさせていただきたいと思っております。

この調査は、平成23年11月に1,000名を対象に行ったものです。現在、関係各課や各区でも食育を実施しておりますので、変化はあると思われまます。食育もよい方向で動いているとは思いますが、行政が働きかけにくい20歳から40歳代の男性を中心にまとめておりますので、これからご説明をさせていただきたいと思っております。

なお、これは、平成25年度の北海道栄養改善学会の発表で使用しているものです。

これは、BMIをあらわしております。BMIというのは、肥満や痩せの体格指数をあらわすものですが、BMI25以上の人が肥満と判定されます。また、BMI25以上の人に糖尿病などの生活習慣病が増加することから、国の施策として、平成20年度から、特定健診・特定保健指導などが行われております。

全国の特定健診データからBMI25以上の多い県を順位づけし、色分けしたものがこちらの図です。1位から5位の県を赤色で示しております、北海道は、1位ではないのですが、肥満が多いという地域になっております。女性は東北地方に多いのですが、北海道は黄色で全国的に見ると中くらいのランクに位置しているところです。

続きまして、特定健診の結果について、全道的に見たものではなく、札幌市民の健康情報ということで、健康さっぽろ21の市民健康調査から調べたものです。こちらを見ると、札幌市においても男性の肥満は多く、40代で肥満の人は28.9%います。そして、このグラフを見てもわかるように、20代から30代にかけて肥満者が急激にふえているという結果が出ております。

続きまして、札幌市の肥満が多いのは、1日に食べるエネルギー量が多いからなのかを分析するために、全国と札幌市民のエネルギー摂取量を比較してみました。これは、平成23年度の国の調査と比較したものです。グリーンが札幌市の20歳代から40歳代の摂取量をあらわしていますが、全国平均と比較したところ、ほぼ同様という結果が出ておりました。

次に、エネルギー摂取量の基準から、基準以上に摂取している人がどのぐらいいるかを

見たところ、約3割の人が基準以上に摂取していました。しかしながら、この中で基準以上に摂取している人が肥満者であったということは統計的には言うことができませんでした。

次のグラフは、全国と札幌市の朝食欠食率の比較をしたものです。札幌市の20代では、全国と比較して13ポイントも欠食率が高くなっていました。各年代ともに高いのですが、特に20代の男性で欠食率が高いという結果が出ております。

次に、朝食を食べている人と食べていない人の摂取エネルギー量を比較しました。黄色が朝食欠食者の平均で、朝食をとっていない人も約2,000キロカロリーのエネルギーをとっていました。

次に、朝食をとった人と朝食をとらなかった人のエネルギー比率です。当然のことながら、朝食をとらなかった人は、昼食と夕食からのエネルギー比が高くなっており、ブルーで示したように、30代で58%、40代では63%ということで、夕食からのエネルギー比率が高くなっています。

続いて、朝食を食べるために何が必要かを聞いたところ、20代から30代の男性では、家族や周りの人の支援が多くなっていました。女性では、自分で朝食を用意する努力というのが多く出ておまして、ここでは男女差がはっきりと出た結果となっています。

次に、20代から40代の野菜摂取量と食物繊維の摂取量をあらわしている図です。食物繊維は、血糖値を急激に上げない働きがあることから、生活習慣病の予防の観点からも重要だと言われておまして、野菜には食物繊維が多く含まれております。それから、生野菜や根菜類のゴボウなどはよくかんで食べるということが唾液の分泌を促す効果もあります。そういった観点からも野菜摂取を進めているところですが、実は、野菜摂取につきましては、健康さっぽろ21ができた約10年前から力を入れて取り組んできているところですが、なかなかふえていかない現状があります。

特に、20代、30代は、男女ともに野菜摂取量が少ない結果が出ております。そして、食物繊維も目標量に達しておりません。

続きまして、主食、主菜、副菜がそろっている食事が1日2回以上ある割合を調べました。主食は、エネルギー源になるご飯やパン、そして、主菜は魚や肉、卵、大豆製品などのタンパク質を多く含むもので、副菜は野菜料理となります。この主食、主菜、副菜を1日2回以上食べている人にエネルギーバランスがいい、ビタミンなどの摂取も不足が少ないということで国でも進めるということが出てきております。

そこで、札幌市民の状況を調査したところ、この3点がそろっている年代は60歳以上になると成績が非常によくなるのですけれども、20代から30代につきましては余りよくないという結果が出ております。

最後に、今後に向けてです。

一つ目に、朝食摂取、野菜摂取の取り組みを強化していく必要があります。特に、若い年代から進めることが必要と考えております。二つ目に、男女を問わず自分で朝食を用意

できる市民をふやすことが必要と考えます。三つ目に、栄養バランスを整えるために主食、主菜、副菜の3点をそろえた食事形態の啓発が必要と考えています。これらを整えていくことによりまして、食を大切にすることを育んでいく、一食一食を大切にしていこうという心を育んでいきたいと思っております。

本日は、健康分野の課題について報告をさせていただきました。

続いて、松田係長から、平成26年度の事業について説明をさせていただきます。

○事務局（松田食育推進担当係長） それでは、引き続き、平成25年度食育事業計画をご説明させていただきます。

お手元の資料は11番となっております。

ライフステージごとの食育では、子どものころからの食育について、食育関係部局で担当者会議を開催し、事業や情報の共有を図って検討してまいります。また、保健所での栄養教諭等への研修も行います。

若い世代、中高年世代、高齢者世代の各年代向けには継続して食育事業を行ってまいります。さらに、若い世代向けには、先ほどの課題でもございましたが、若い世代への朝食摂取、野菜摂取の取り組みの強化といたしまして、各区保健センターで高校生、大学生等を対象とした健康講話の実施や健康栄養情報の提供など、モデル事業を開始いたします。

また、中高年世代の食育事業といたしまして、肥満が多い世代となりますことから、糖尿病予防のため、肥満がふえ始める20歳代から50歳代の方をターゲットにした働く世代の食生活支援事業を新規事業として行います。

この事業は、栄養バランスのよい健康的な食事であるヘルシーメニューの提供の促進とその利用者の体重管理等を行っていくものです。

ヘルシーメニューにつきましては、1食当たりの基準がおおよそ1日の3分の1程度としています。エネルギーは大体500から650キロカロリー、脂肪エネルギー比が25%程度と脂肪分が余り多くない食事ということと、塩分が1日の3分の1ぐらいの3グラム程度、野菜の量が100グラム以上としております。

事業実施におきましては、医師等の有識者による検討委員会を保健所で開催し、事業の検討、評価をしてまいります。

働く世代の食生活支援事業の一つといたしまして、ヘルシーメニューモニターを実施いたします。事業所等の給食施設において、ヘルシーメニューを提供し、そのヘルシーメニューの利用者を募集し、利用者にはアンケートを行い、モニタリング中に体重測定や栄養・健康情報の提供を行います。また、希望者には、1日の食事を写メールで送ってもらい、栄養価算定等を行うなど、利用者を3カ月間モニタリングし、肥満予防対策を行います。今年度は3事業所において行います。

また、事業として、健康的なヘルシーメニューの提供促進を図るため、ビジネスマンのためのヘルシーメニューコンテストを実施いたします。

このヘルシーメニューを市民が気軽に利用できるよう、コンテストのメニューからレシ

ピ集を作成し、市民、飲食店、事業所、給食関係者に配付いたします。食生活の改善が継続的に進められる環境整備の一つとして、ヘルシーメニューの提供について普及し、促進してまいります。

そのほか、企業等との協働事業といたしまして、第2次食育推進計画の柱であるさっぽろ食スタイルを、昨年度の6月の食育月間に、ホテル、飲食店等と協働し、推進してまいりました。さらに、今年度の6月の食育月間では、さっぽろ食スタイルの普及と障がい者施設の応援も含めて、札幌市保健所が、札幌グランドホテルの協力を得て、障がい者施設で「さっぽろ食スタイル 昆布入りひじきパン」として作成し、販売いたします。

現在、元気ショップ・元気ショップいこ〜るで販売中ですので、ご協力、ご利用をお願いいたします。

また、今年度は、さらに8月の野菜摂取強化月間におきましても、6月に協働いたしましたホテルや飲食店において、さらに野菜たっぷりメニュー等の提供を行っていただく予定です。

札幌市広告事業で、8月は、野菜摂取強化月間ポスターを作成してまいりました。今年度は、さらに野菜摂取強化月間レシピを広告事業により作成いたします。そして、野菜摂取について普及してまいります。この野菜摂取強化月間のレシピにつきましては、減塩でおいしい野菜レシピとして作成いたします。このレシピは、食のボランティアである食生活改善推進員のレシピから、ホテルクラブサッポロ料理長と札幌市保健所が推薦して作成いたします。ポスター、レシピ等を、学校、幼稚園、保育所等関係機関や野菜販売店、スーパー、理美容室などの団体等と連携して普及してまいります。

平成26年度食育事業計画のご説明は以上でございます。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 以上で、平成26年度の事業計画の説明を終わります。

○荒川会長 ありがとうございます。

ただいま、平成26年度の事業計画につきまして、食の安全推進課と健康企画課からの事業報告の一部をご紹介いただきました。また、健康企画課の事業につきましては、その土台になる現状についての分析もご発表いただきました。

ただいまのご報告につきまして、委員の皆様からご質問、ご意見があればお願いしたいと思います。

○宮森委員 宮森です。

札幌市民の食生活の現状と課題を説明していただいて、とても参考になりました。男性について追跡されていて、栄養的な面では十分にわかったのですけれども、男性の活動量がキーワードになっているのかなという気がしております。

例えばの話ですが、札幌は、オフィス勤めが多いので、仕事では余り動かない状況で、通勤はどうかというと、もしかしたら車で通勤されている状況があるのかなと思います。これは自分の経験ですが、東京では、公共機関を乗り継ぎで利用していると、そんなに歩

き回らなくても1万歩は超えるのです。ですから、活動量の調査もあわせてやっていただくと、もっといいのかなと思います。

例えば、事業計画の中で、ヘルシーメニューモニターの実施ということで、ヘルシーメニューとか朝ご飯のチェックとか体重計測などが入っているのですが、プラスして、何歩歩いているかとか、活動量計ではかっていただくと、いいデータが得られるのではないかと考えております。

札幌は、車で通勤することが可能ですね。東京だと、車をとめる場所がないからどうしても公共交通機関を利用して、歩くというふうになっている傾向もありますので、ぜひお願いしたいと思います。

○荒川会長 運動量、活動量についての調査結果はありましたか。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） 運動習慣のある人の調査結果もあります。実は、20代から40代の男性では、全国調査と比べても少ないという結果があります。ですから、宮森委員からいただきましたご意見を賜りまして、このたびの給食を提供しながら、あわせて、卓上メモなどに運動を勧めていく形も取り入れて進めたいと考えています。

貴重なご意見をありがとうございます。

○荒川会長 ふだんの活動という感じですね。あえてする運動ではなくて、みんなで歩こうとか、エスカレーターをやめて階段を使おうということですね。そういう人たちがどれぐらいいるかですね。

○宮森委員 運動と言うと、マシンを使うようなイメージで、健康センターに行かなければならぬ、いや、そんな暇はないということになるのですが、通勤で歩けばという視点で啓発活動をやっていただければと思います。週に1回は歩くとか、車を使わないとか、そういうことです。

○事務局（高川健康企画担当部長） きょうは、食育推進会議ですから、栄養とか食育に関して特に深く掘り下げた事業計画などのご説明を申し上げました。札幌市民の健康に関しては、栄養の要素も含んで、ほかの運動習慣とかいろいろなものも含めた計画が健康さっぽろ21です。先ほど、統計の説明の際に何回か出てきたのですけれども、これが総合的な計画になるわけです。ですから、今おっしゃったような栄養の摂取量のほかに、肥満とか栄養が多過ぎるとするのは、運動とのバランスですね。その運動に関しても、スポーツジムなどに行きやるのではなくて、日ごろの日常生活の中で体を動かすように心がけるということも取り組んでおります。ですから、全部の駅ではないのですけれども、地下鉄大通駅の一部の階段で、何段上がると何カロリー消費しますという身近な運動をしていくような取り組みを、いろいろな部署と連携しながらやろうと考えております。

ただ、それを心がけている人がどのぐらいいるかという分析、評価は、何年かの節目に意識調査などをやっておりますので、運動習慣などはそこでも継続していきたいと考えています。

○荒川会長 そのほかにいかがでしょうか。

○清水委員 資料9です。取り組み一覧にも観光客に向けての取り組みがあったかと思うのですが、食の安全のおもてなしのわかりやすい情報提供の中で、「など」と書いてあるので、もしかしたら取り組んでいらっしゃるかもしれませんが、イスラム教、ムスリムのハラールフードの認定店もこの中に含まれているのでしょうか。もしなければ、東京などでは取り組まれていると思うのですが、観光客も多いですし、そのようなところも気をつけていただけたらと思いました。

○事務局（細海食の安全推進課長） ムスリムの関係については、念頭に入れてはいるのですが、正しい形で対応するのはかなり難しいです。同じ宗教でも、国によってもムスリムの考え方が若干異なるということで、単純にムスリム対応をしている店、対応をしていない店ということで一律にするのはちょっと難しいかなと思います。当初は考えていたのですが、今すぐにムスリム対応を項目として上げるのは慎重にならざるを得ないかなと考えております。

○清水委員 わかりました。

せめて豚肉とアルコールぐらゐは入っている、入っていないぐらゐの表示があると、特に空港などではいいかなと思いました。

○事務局（細海食の安全推進課長） お肉については、アレルギーもかかわってまいりますので、そういった部分で情報提供できればいいかなと思っております。

○荒川会長 そのほかにいかがでしょうか。

○山崎委員 同じく、食の安全・安心おもてなしのところでは、アレルギー表示とか栄養成分表示とか、大手の外食産業だと、専門の部署があって、専門の方がいてということになると思いますが、札幌市内のおいしくて有名なお店でも、そんなに規模の大きくないところがいっぱいあると思います。そういうお店は、誰がどのように調べて、それをお客様に提示するのでしょうか。

○事務局（細海食の安全推進課長） 栄養成分表示のお店は、既に制度があるので、そういったものを活用してということになります。アレルギーにつきましては、法律で表示するということになっていますので、そういったものをメニューにちゃんと入れているというところがありましたら、そこは確認することができます。あるいは、メニュー表の写しを出していただくことでも確認が可能です。メニューの中身が正しくなっているかどうかについては、お店の申告に基づいての信頼ということにはなるのですが、そういった形で対応しています。大手の外食チェーンですと、メニューの中にアレルギー物質表示が既に結構なされています。そういった大手はできるのですが、小さいところは、そういうところがまだ少ないので、ガイドブックを整理していったときに、小さいお店ですと、そこを対応していかなければ、そこに丸がつかないという形の一覧表になると、観光客の方に来ていただきたいということで取り組まざるを得ないということで、逆に推進につながるのかなと思っております。

具体的に、専門の方がいなくて、どういったものがアレルギー表示が必要な項目かさえ

わかれば、自分たちで原材料を見ればわかります。保健所の職員も飲食店などに監視に行きますので、そういったところでもPRあるいは確認をしていきたいと思っています。

○荒川会長 そのほかにいかがでしょうか。

○高橋委員 中央市場の高橋でございます。

食育推進会議ということで、食育は、テーマが非常に広いし、きょうの担当の方も、保健所はもちろん、市民まちづくり局、子ども未来局、経済局と、市の中でもほとんどの部局にまたがっていると思いますが、それぞれ区でレシピをやったり、今ご説明をいただいた事業はとても大変なことだと思って聞いておりました。

ただ、食育ということになると、きょうやってすぐにあしたから効果が出るような問題ではありません。私ども中央卸売市場でも食育にいろいろ取りかかっているのですが、特に学校給食と、給食の先につながる家庭での食事に結びついていかないと、どうも効果がないなというのが我々の認識です。

そういう意味から、今は家庭環境や家族構成が変わっていますけれども、やはり、子どもに家で食べたものがずっと残っていると思うのです。ですから、子どもに家で出されたものが、その子たちが大人になって結婚して、また子どもに受け継がれていく、そんな息の長い事業なのだろうと思っております。

札幌市で考えますと、これだけの部局にまたがっているので、保健所が総合的なデザイナーになっているのか、市長がやっておられるのか、どなたがやっているのか、よくわかりませんが、そういうことも必要だと思います。

もっと言えば、昨年、和食が世界文化遺産に指定されましたが、これは家庭の食事なのです。テレビなどに出ているものは京都の料理屋の四季折々のきれいな食事ですが、やはり、一汁三菜の和食文化なのです。食育を考える場合には、そういうことも念頭に置いて考えて、少し長い目で見てやられることだと思います。3年、5年という計画で、毎年の予算もあるし、いろいろ組まれているのでしょうけれども、そういうことも必要かと思えます。

それから、先ほど、カレンダーの件で予算の話もありましたけれども、予算を先に分けてしまうのではなくて、トータルで1,000万円なら1,000万円の予算でもいいのですけれども、それをどう使うかを考えたほうが良いと思います。保健所は500万円、豊平区は100万円という範囲内でやるのではなくて、1,000万円なら1,000万円の中で総合的に割り振りすると、もっと有効的に使えるような気がしました。

初めて出席して、いろいろな話を聞いた中での感想を言わせていただきました。

○荒川会長 食育は、縦割りだとよくいかないもので、ネットワークというか、横のつながりでかなり進められていると思います。予算等についても、市役所の中でいろいろご相談の上で配分を決めたりしているのだと思いますけれども、今の感想について、事務局から総括的なお話をいただけますか。

○事務局（高川健康企画担当部長） おっしゃるとおり、食育に関しては、取り組みが多

岐にわたると同時に、息の長い取り組みです。その効果がすぐに出るものではありませんので、世代を意識しながら取り組んで、その効果がやっとならわれるかどうかというものだと思っております。

それから、予算については、先ほどは予算の制約があってというように受け取られたかもしれませんが、限りある条件の中で最大限の取り組みをしていきたいと常々思っております。それをより効果的、効率的にということについては、きちんと戒めて取り組みたいと思いますので、どうぞ見守っていただきたいと思っております。

○荒川会長 ありがとうございます。

そのほかにいかがでしょうか。

○渡辺委員 たくさんの情報をいただきまして、ありがとうございます。

1点、そういう予定があるのかということをお伺いいたします。

先ほど、豊平区、白石区、東区から、平成25年度の各食育事業の中で、区の中で食育に関する推進ネットワークをつくり、その中で食育への関心度を高めるという取り組みを行ってきたというお話がありました。ネットワークをつくるというのは非常に素晴らしい行動だと思っております、平成26年度も、そのようなネットワークを利用しながら、新たに取り組むようなことを計画中であるのかなのか、もしあるのであれば、そのアイデア等をいろいろな部分で広めていただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○事務局（小松健康・子ども課主査） 東区の予定をご説明させていただきます。

先ほどの説明の中でもお話しさせていただいたのですが、食育フェアと親子料理教室は例年実施いたしまして、ことしの料理教室につきましては、情報交換会で実施しましたサツラク農業協同組合のミルクの郷も含めて、生産から調理までということで行いたいと考えております。

また、食育川柳を募集しましたところ、私たちの予想を超えて、多数の応募がありまして、小学生では十数%の応募がありましたので、それをもとに、ことしは、食育川柳かるたを作成し、子どもや高齢者等にも普及してということを考えております。

○事務局（先野健康・子ども課健やか推進係） 白石区では、平成25年度も行いましたが、学校の栄養士とDVDをつくりまして、7月中に流す予定です。昨年度に行いましたコンテストのレシピも、それに合わせて各学校で配付することが決まっております。

○事務局（岡林健康・子ども課健やか推進係） 豊平区でも、平成25年度の取り組みをそのまま継続することと、さらに、新しいネットワークを広げるのもそうですが、協力事業者同士の横のつながりがなかなかつくりにくいところがありましたので、今度はそちらにも目を向けて、意見を聞きながら事業を広げていきたいと思っております。

○荒川会長 さらに発展的に事業を継続されるということでございますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

そのほか、委員の皆様からご意見、ご質問がありますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○荒川会長 なければ、ご欠席の委員からご意見、ご質問などはありましたか。

○事務局（加藤食育・栄養担当課長） ありません。

○荒川会長 それでは、（3）のその他として、委員の皆様から、ここでご審議いただくようなご提案などがありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○荒川会長 事務局から、その他で何かありますか。

○事務局（高川健康企画担当部長） 特にございません。

○荒川会長 それでは、本日は、限られた時間でしたけれども、中身の非常に濃いご議論をいただいたと思っております。

最初に、全体のご報告をいただいたときに、三角印といいましようか、幾つか残っているということがございますので、平成26年度につきましては、その三角が少しでも減るように事業計画を見守っていきたいと思います。

先ほど、札幌市民の現状の発表がありまして、遠藤委員から無関心層をどうするかという話がありましたが、こういう危機感をしっかりと認識していただくことはとても大事です。ですから、この辺は無関心層にもしっかりと伝えていくことが大事だと思います。脅すわけではないですけれども、そういうことが実際に起きているという現状をきちんと伝えていくことがとても大事だと思います。それによって、これではいけないという行動変容につながっていくと思います。きょうは、札幌市民の人たちに、大変貴重なデータをもとに、課題があるということをお伝えいただいたと思います。これをまた共有しながら、しっかりとした事業が進んで、三角が少しでも減るように、二重丸がいっぱいふえるように見守っていきたいと思います。

きょうは、熱いご議論をたくさんいただきまして、どうもありがとうございました。

これにて閉会したいと思います。ありがとうございました。

4. 閉 会

○事務局（高川健康企画担当部長） 皆さん、本当にありがとうございました。

会長からのお話がありましたように、時間を若干超過するほど活発なご議論をいただきまして、ありがとうございます。また、辛口のご指摘もいただきましたし、会長が総括していただいたご審議の結果を受けまして、取り組みを順次進めてまいりたいと思いますので、委員の皆様方には、どうか今後ともよろしくお願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上